

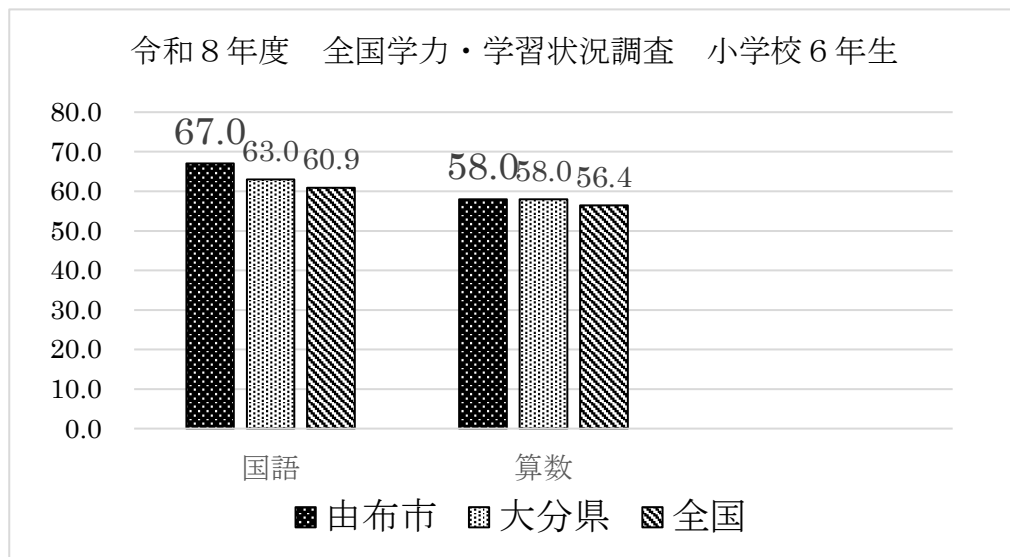
# 令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和8年9月10日  
由布市教育委員会

## 1 結果の概要

### 【小学6年生】

○小学6年生では、国語・算数ともに全国平均より高い（正答率）。



### 【教科別正答率】

|          | 教科 | 由布市  | 大分県  | 全国（公立） |
|----------|----|------|------|--------|
| 知識・技能    | 国語 | 68.4 | 64.5 | 62.0   |
|          | 算数 | 61.6 | 61.1 | 60.1   |
| 思考・判断・表現 | 国語 | 65.6 | 61.2 | 60.1   |
|          | 算数 | 47.8 | 48.3 | 45.4   |

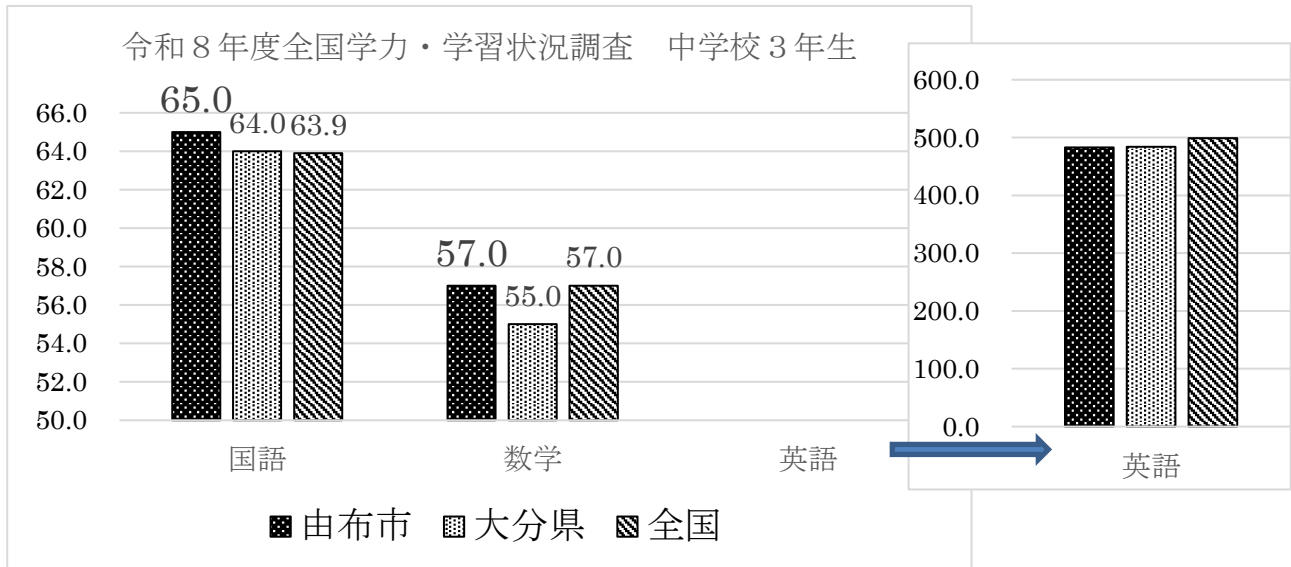
|    |           | 由布市  | 大分県（公立） | 全国（公立） |
|----|-----------|------|---------|--------|
| 国語 | 話すこと・聞くこと | 70.5 | 66.9    | 65.8   |
|    | 書くこと      | 50.5 | 45.4    | 45.7   |
|    | 読むこと      | 73.4 | 68.5    | 65.9   |
| 算数 | 数と計算      | 61.9 | 62.3    | 61.1   |
|    | 図形        | 57.2 | 56.5    | 55.3   |
|    | 測定        | 81.0 | 77.9    | 78.1   |
|    | 変化と関係     | 40.0 | 39.1    | 41.1   |
|    | データの活用    | 51.0 | 50.6    | 48.6   |

# 【中学3年生】

○中学3年生では、国語は、全国平均を上回った。英語は、全国平均より若干低くなっている。

英語については、今年度 CBT による調査のため、IRT スコアでの報告とする。

## 【教科別正答率】



※数値は平均正答率

|          |    | 由布市  | 大分県（公立） | 全国（公立） |
|----------|----|------|---------|--------|
| 知識・技能    | 国語 | 65.2 | 63.3    | 64.2   |
|          | 数学 | 63.2 | 61.0    | 63.0   |
|          | 英語 | 55.2 | 57.4    | 59.8   |
| 思考・判断・表現 | 国語 | 65.3 | 63.7    | 63.7   |
|          | 数学 | 39.4 | 36.5    | 39.1   |
|          | 英語 | 49.0 | 49.3    | 52.8   |

|    |           | 由布市  | 大分県（公立） | 全国（公立） |
|----|-----------|------|---------|--------|
| 国語 | 話すこと・聞くこと | 68.1 | 64.1    | 63.9   |
|    | 書くこと      | 66.3 | 67.0    | 67.4   |
|    | 読むこと      | 61.4 | 60.0    | 59.7   |
| 数学 | 数と式       | 68.5 | 65.4    | 67.8   |
|    | 図形        | 48.4 | 43.5    | 48.7   |
|    | 関数        | 57.6 | 55.2    | 54.8   |
|    | データの活用    | 51.7 | 52.8    | 53.5   |
| 英語 | 聞くこと      | 58.3 | 59.0    | 62.8   |
|    | 読むこと      | 54.9 | 57.5    | 60.0   |
|    | 話すこと      | 34.7 | 29.2    | 36.7   |
|    | 書くこと      | 40.6 | 39.8    | 43.1   |

※「英語」については、今年度より CBT 調査を実施。

数値は「公開問題のみ」の数値になるので参考値とする。

「英語」については、8月段階では3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）のデータのみ提供されている。（「話すこと」は9月に提供予定）

## 2 課題としてあげられる内容

(1) 小学校 ※市の正答率が全国正答率より 5 ポイント以上低い問題。

### ①【国語】

課題となる問題なし。

②【算数】(市の正答率が全国正答率より 5 ポイント以上低い問題はない。)

○3 (2) 整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる。

(知技・短答) (全国正答率 58.1 県正答率 59.9 由布市正答率 53.8)

<考えられる要因>

○「繰り下がりの処理」の誤り。」

- ・整数部分の  $5-3=2$  をそのまま残し、小数部分 3.76 をそのまま引かずに処理している可能性。

○整数部分と小数部分を分けて計算している。

- ・空位の計算、特に、引き算における空位の計算の仕方が十分に身に付いていない。

<対策>

○整数を小数で表現することを理解させる工夫。

- ・具体物や図、位取り表などを使って確認する。(5 と 5. 0 0)

○授業で「誤答」から考える。

- ・ $5-3.76=2.76$  という答えが出た。この計算のどこが違うのかを考える。

(2) 中学校 ※市の正答率が全国正答率より 5 ポイント以上低い問題。

### ①【国語】

○3 (3) 段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる。

(思判表・選択) (全国正答率 65.0 県正答率 63.3 由布市正答率 58.4)

<考えられる要因>

○「段落の内容」を読むことに偏っている。

○接続語を「意味」で捉えても、「構造」と結び付けていない。

- ・接続語を見つける学習はできるが、接続語を手掛かりに文章の構造を説明することが難しいのではないか。

○自分で文章を「構成する」経験と「読む」経験がつながっていない。

<対策>

○「この段落は何？」から「この段落は何のため？」を考える。

(例) 3 段落には何が書かれていますか。

→3 段落は、文章全体の中で何のために置かれているのでしょうか。

→2 段落と 3 段落はどのような関係かを問う。

→3 段落をなくすと、文章はどうなるか。

○「段落相互の関係」を図にする。

(例)「問題提起→主張→理由→具体例→主張の確認」のようにつないだ時、単に何を示しているのかを標記するのではなく、「具体化」「理由」「対比」「補足」「例示」「まとめ」「転換」のようにその効果に触れる言葉を使う。

○「段落の内容を捉える」→「段落相互の関係を捉える」→「文章展開の意図を考える」の流れを継続し、さらに段落相互の関係を「説明させる」ようにすることが大切。

## ②【数学】

○9 (1) 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる。

(知技・短答) (全国正答率 46.0 県正答率 47.0 由布市正答率 38.4)

### <考えられる要因>

○「累積」という言葉の意味が数量として理解できていない。

○「～まで」という範囲を読み取れていない。

どこから→ 最小の階級

どこまで→ 6時間以上7時間未満を理解する必要がある。

○「度数」と「累積度数」の違いが曖昧。

### <対策>

○「累積度数」という言葉を先に教えない。

・初めの段階で「累積度数とは、最小の階級からある階級までの度数の和」と

教えると、計算する方法の暗記になりやすい。「意味→用語」の順で学習を深める。

○「どこまでなのか」を色や線で可視化する。

○授業の中で、「身近なデータ」を扱う。

○表を読むだけでなく、その数字が表す集団の特徴を説明する。

## ③【英語】 ※3技能分での結果から

○5 社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる。

### 【聞くこと】

(知技・選択) (全国正答率 55.6 県正答率 47.8 由布市正答率 42.7)

○7 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。【読むこと】

(思判表・選択) (全国正答率 72.4 県正答率 67.8 由布市正答率 63.4)

○11①音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

### 【書くこと】

(思判表・記述) (全国正答率 58.9 県正答率 53.7 由布市正答率 51.4)

○13 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。【書くこと】

(知技・短答) (全国正答率 44.0 県正答率 39.7 由布市正答率 36.2)

### <考えられる要因>

- 「聞こえた単語」のみを手掛かりに答えている。
  - ・「何が聞こえたか」から「何を伝えようとしているか」へ聞き方を変える必要がある。
- 一語一語を日本語に訳そうとしている。
  - ・英語の発話速度についていけなくなったときに、全体像を見失いやすくなる。
- 「要点」と「具体的な情報」の違いが分かっていない。
- 「英文は最初から全部訳すもの」という読み方になっている。
- 「何のために読むのか」を意識していない。

### <対策>

- 「何が聞こえた」ではなく「何を伝えたいか」を問う。
- 「キーワードメモ」を取り入れる。
  - ・授業の中で聞くことについて学習をする際、はじめに「短いフレーズ」だけメモをする。その後「一番大切なのは何か」を問う。
- 1回目と2回目で「聞く目的」を変える。
  - ・複数回聞く場合は、(1回目)話全体のテーマ・大まかな内容を捉える。(2回目)話し手の考え・要点を捉える。(3回目)答えの根拠を探す。
- 「要点を一言で言う」活動を日常化する。
- 知識を実際のコミュニケーションで活用する。
  - ・「相手に伝えるために、知っている英語を使えるか」を意識する。
- 「正しい英文を書く」ことに意識が偏っている場合、「何を伝えるために、この表現を使うのか」を意識させる。
- 「一度書いて終わり」にしない。
  - ・①書く→②読み手に読んでもらう→③「何を伝えたい文章なのか」が分かったか確認④ 内容・順序・表現を修正→⑤ 書き直す を繰り返す。

### 3. 意識調査結果の分析

#### (1) 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力・学修状況調査では、児童生徒に様々な質問をしている。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測される。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えている。

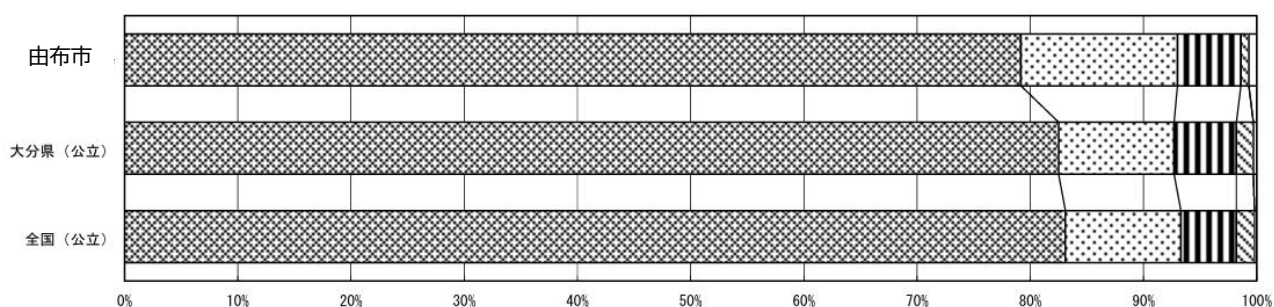
#### 「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」

小学校6年

#### ① 基本的生活習慣について

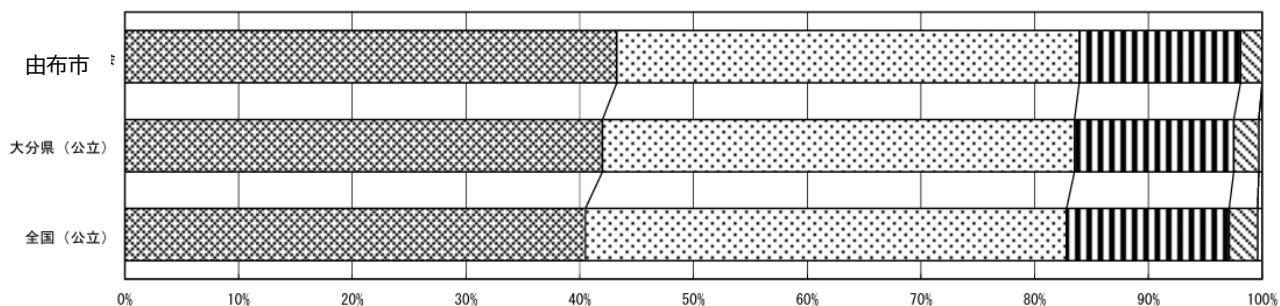
##### Q1. 朝食を食べていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



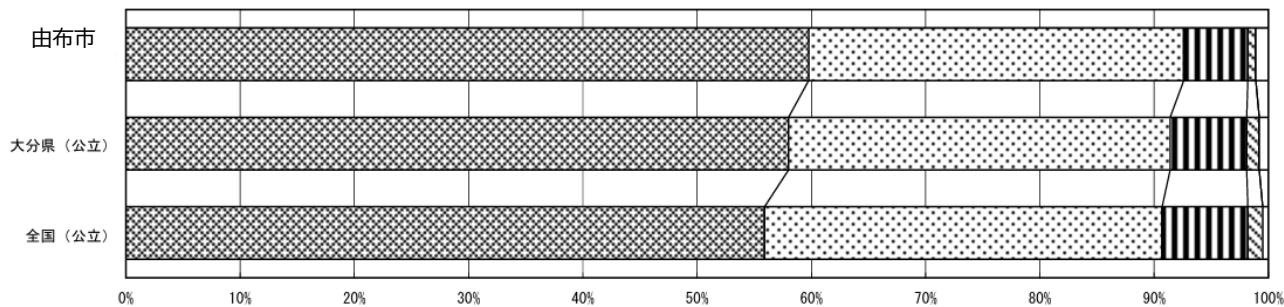
##### Q2. 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



##### Q3. 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

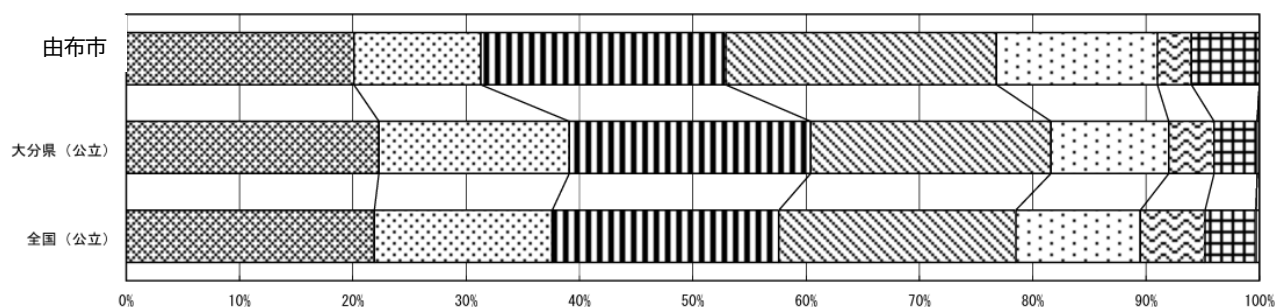
1. している 2. どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



\*朝食を欠かさず食べている割合が昨年度より低くなっている。これらの項目は、学習はもちろん、心身の成長に関わるものであるため、家庭の協力も得ながら、進めていきたいと考える。

Q 4. 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

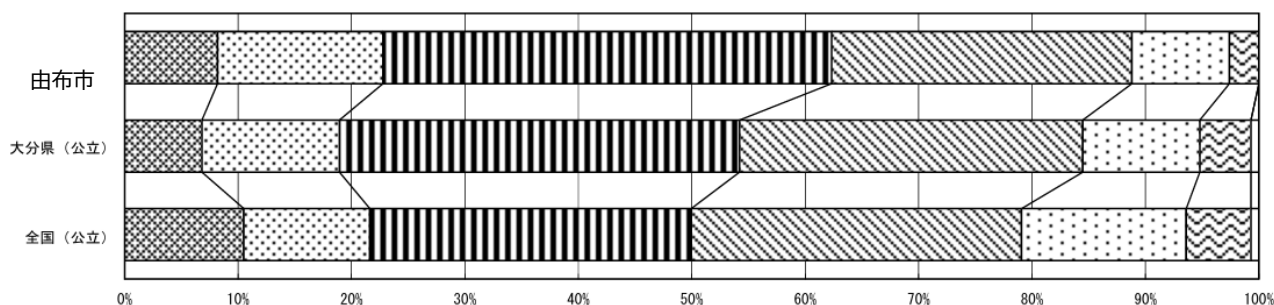
1. 4時間以上      2. 3時間以上、4時間より少ない      3. 2時間以上、3時間より少ない  
4. 1時間以上、2時間より少ない      5. 30分以上、1時間より少ない      6. 30分より少ない  
7. スマートフォン等を持っていない



## ②学習習慣について

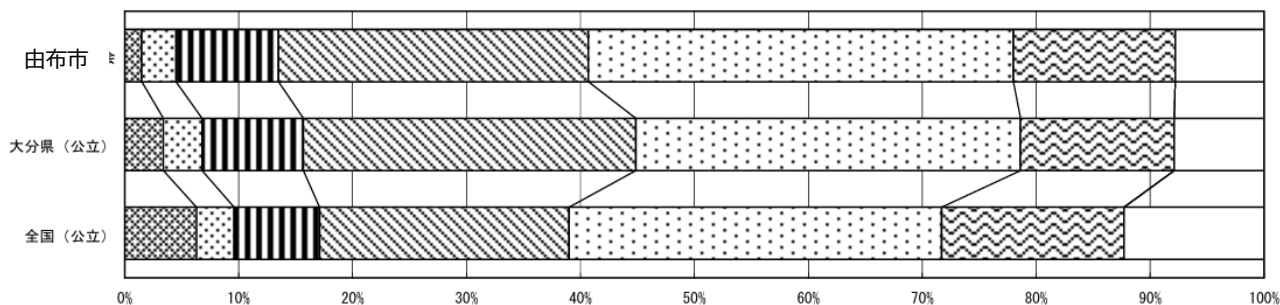
Q 5. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上      2. 2時間以上、3時間より少ない      3. 1時間以上、2時間より少ない      4. 30分以上、1時間より少ない



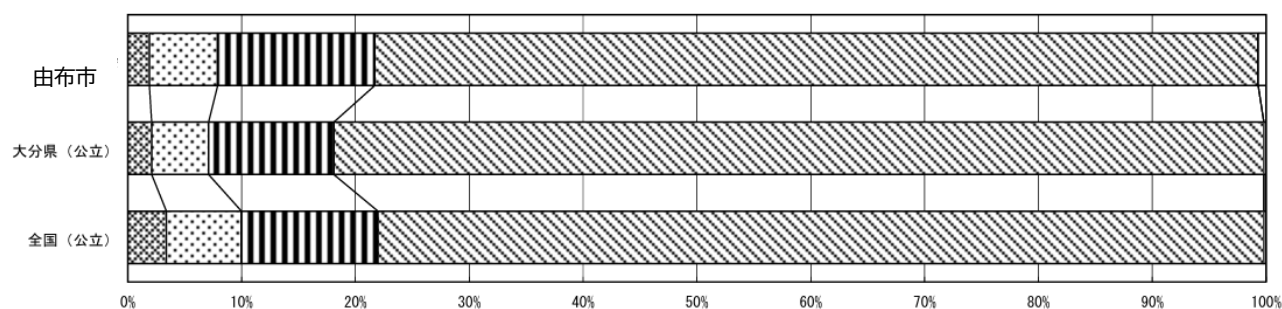
Q 6. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上      2. 3時間以上、4時間より少ない      3. 2時間以上、3時間より少ない      4. 1時間以上、2時間より少ない  
5. 1時間より少ない      6. 全くしない



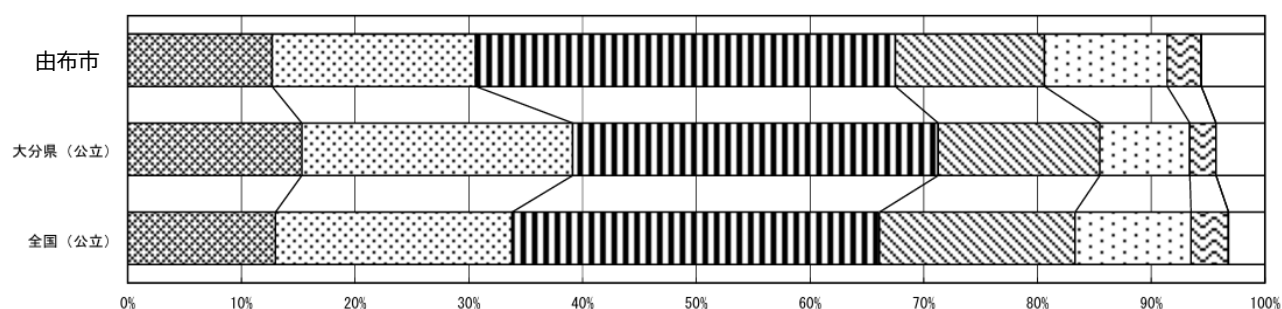
### Q 7. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる    2. 週に1～3回程度読んでいる    3. 月に1～3回程度読んでいる    4. ほとんど、または、全く読まない



### Q 8. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く）

1. 0～10 冊    2. 11～25 冊    3. 26～100 冊    4. 101～200 冊    5. 201～500 冊    6. 501 冊以上    7. その他

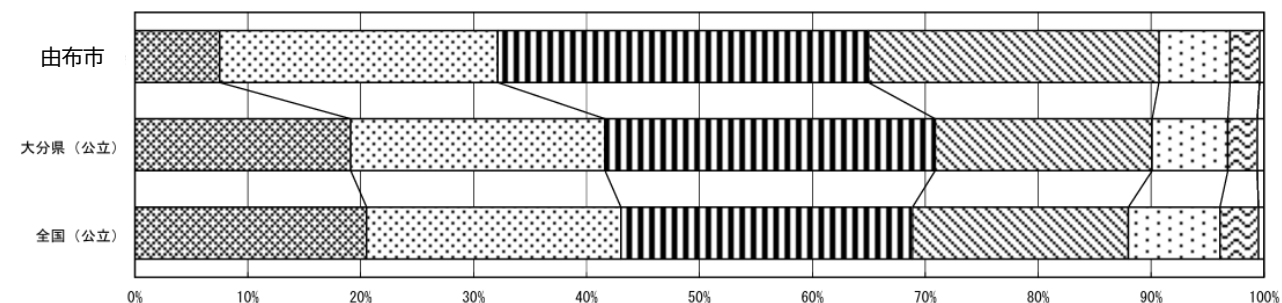


＊「定期的に新聞を読むこと」については、「読まない」児童の割合が、県や国と比べて高いと言える。新聞については、各家庭で購入していない場合もあるので、様々な場面で新聞に触れさせる必要があると考えられる。読書に関する項目については、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」については、県に比べると少ないものの、全国とは同程度であった。学校図書館や地域の図書館の利用をしている児童も多いので、自分が通う小学校だけでなく由布市立図書館、そして県立図書館の利用も進めていきたい。並行して、授業等で図書館を活用したり、新聞を活用したりする学習を取り入れ、低学年のうちから、本に親しむ環境作りの大切さを保護者にも啓発していくことも引き続き必要だと言える。

### ③1人1台端末の活用について

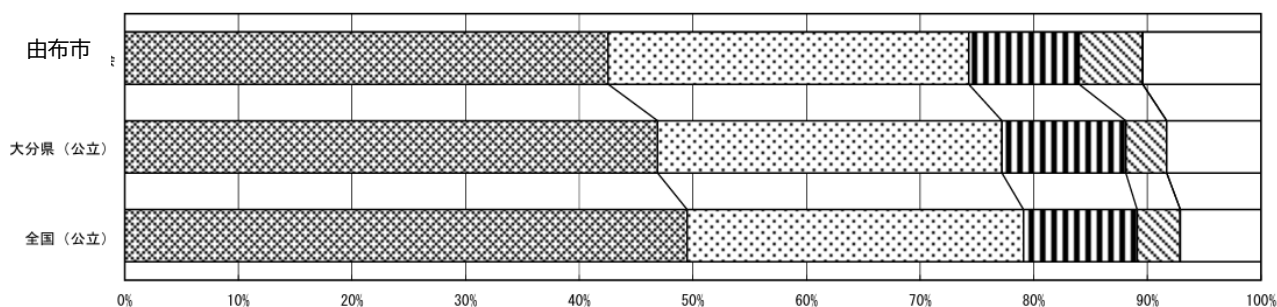
#### Q 9. 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日（1日複数回）    2. ほぼ毎日（1日1回）    3. 週3回以上    4. 週1回以上  
5. 月1回以上    6. 月1回未満



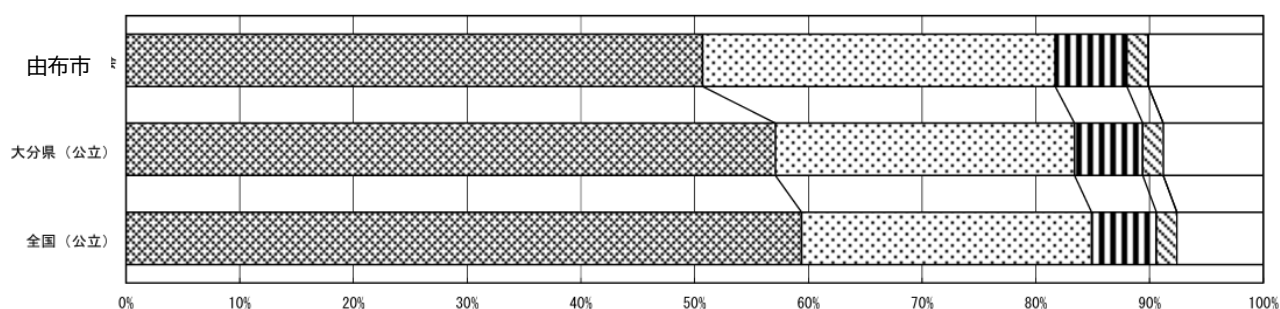
Q10. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



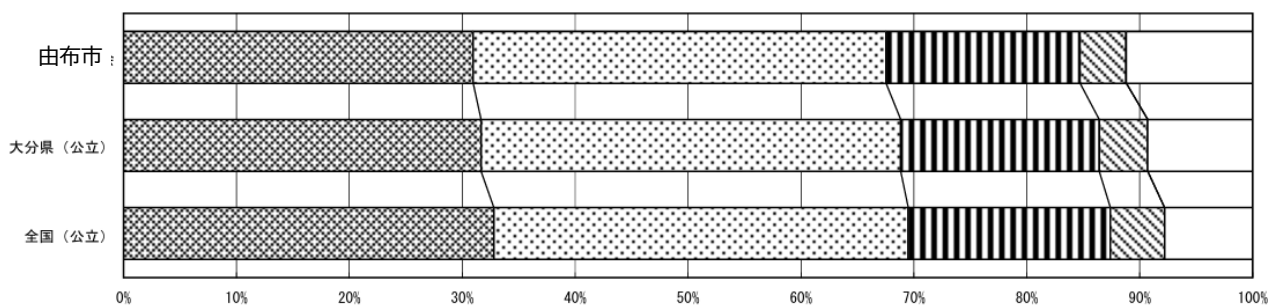
Q11. あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



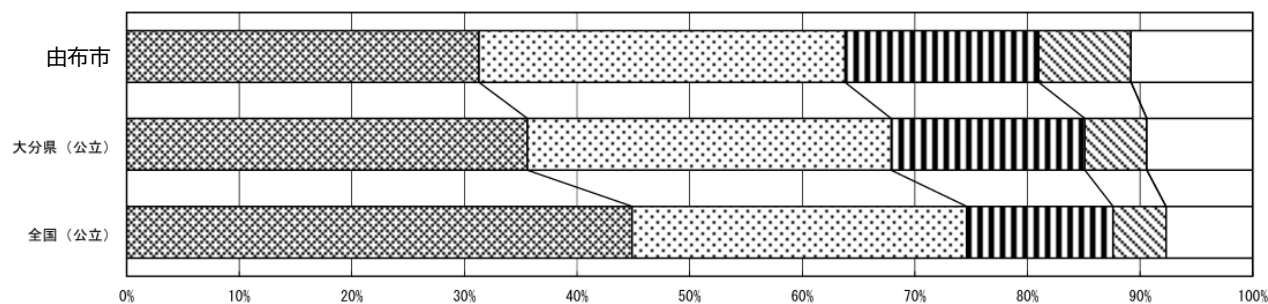
Q12. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



Q13. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない

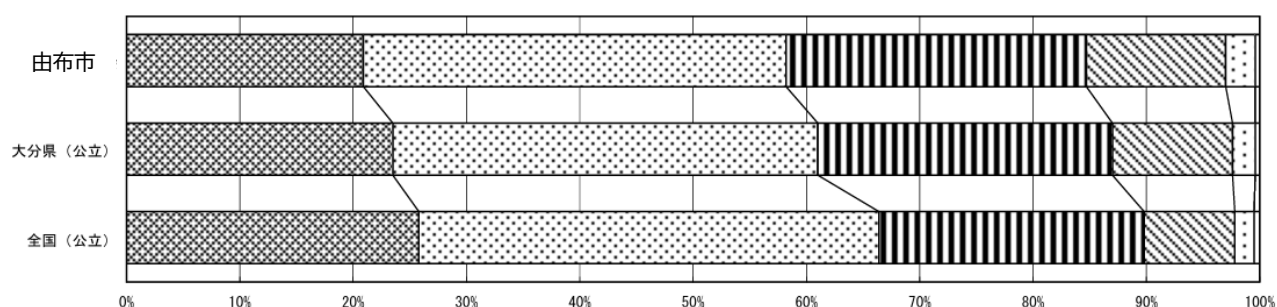


＊ 1人1台端末の活用については、導入以降、授業の中で積極的に使用する場面が増えて  
いる。昨年度に比べると、端末を利用するスキルは向上している。こうしたことから、  
端末は普段の授業の中で積極的に活用され、児童の学習道具として着実に定着しつつあ  
ると考えられる。今後は、さらに有効的な使い方や効果的な使用場面を現場の先生方と  
共有し、学習効果を最大化する工夫を重ねていく必要がある。

#### ④学習意欲等について

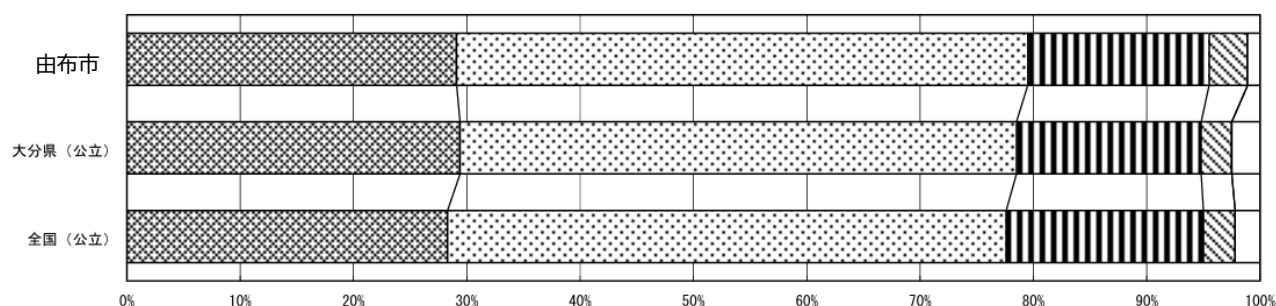
Q14. 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく  
伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1. 発表していた      2. どちらかといえば、発表していた      3. どちらかといえば、発表していなかった  
4. 発表していなかった      5. 考えを発表する機会はなかった



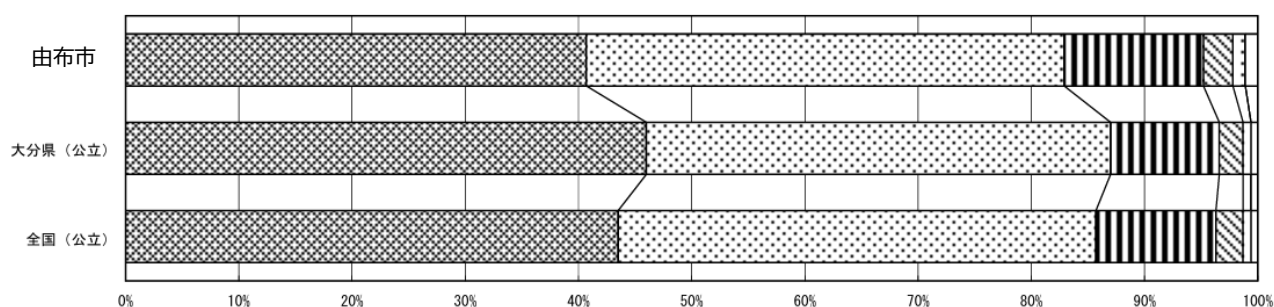
Q15. 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組  
んでいましたか。

1. 当てはまる      2. どちらかといえば、当てはまる      3. どちらかといえば、当てはまらない      4. 当てはまらない



Q16. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方  
に気付いたりすることができていますか。

1. 当てはまる      2. どちらかといえば、当てはまる      3. どちらかといえば、当てはまらない  
4. 当てはまらない      5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

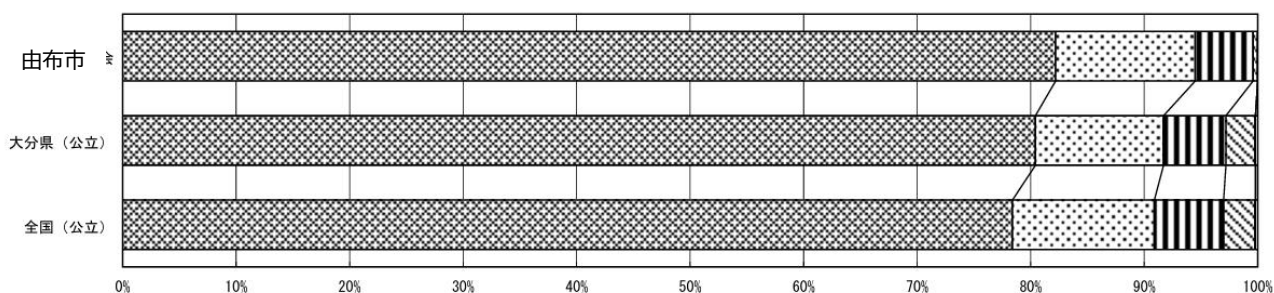


＊「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」という意識が高い。しかし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるか」という意識は、昨年度より低くなっている。授業の中で「話し合う」ことの目的・意味を明確にしながら子どもたちの対話活動を充実させることが必要だと考えられる。

## ①基本的な生活習慣について

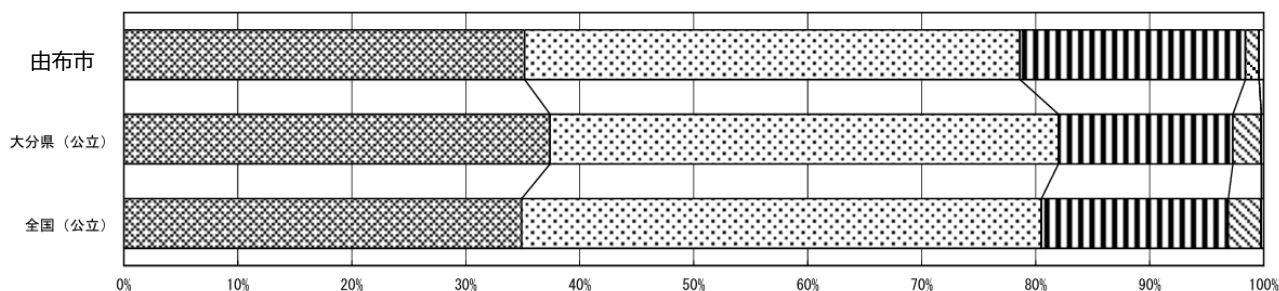
Q 1. 朝食を毎日食べていますか。

1. している      2. どちらかといえば、している      3. あまりしていない      4. 全くしていない



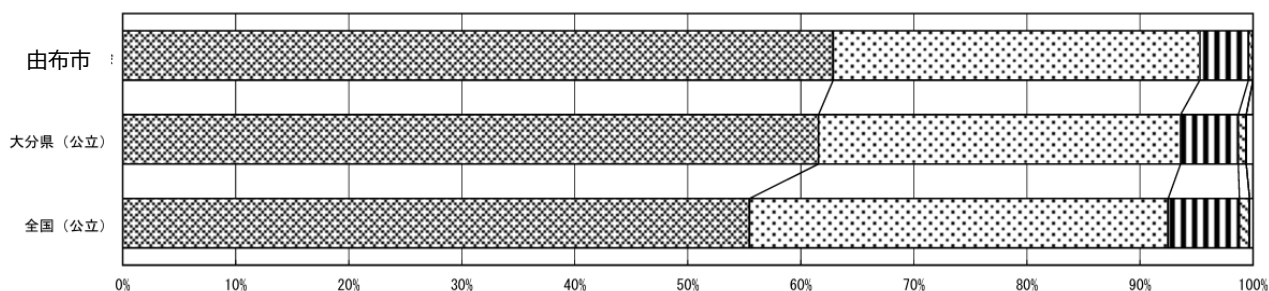
Q 2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している      2. どちらかといえば、している      3. あまりしていない      4. 全くしていない



Q 3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

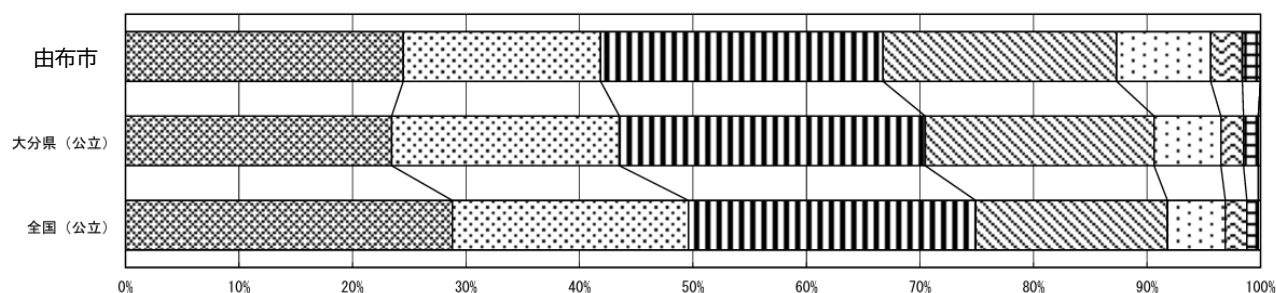
1. している      2. どちらかといえば、している      3. あまりしていない      4. 全くしていない



\* 上記3項について、就寝時刻以外は全国よりも高い。しかし、本市の割合としては、昨年度よりやや低くなっている。これらの項目は、学習はもちろん、心身の成長に関わるものであるため、家庭の協力も得ながら、進めていきたいと考える。特に就寝時刻をある程度決めておくことにより、一定時間の睡眠時間を確保することが必要であると考えられる。

Q 4. 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

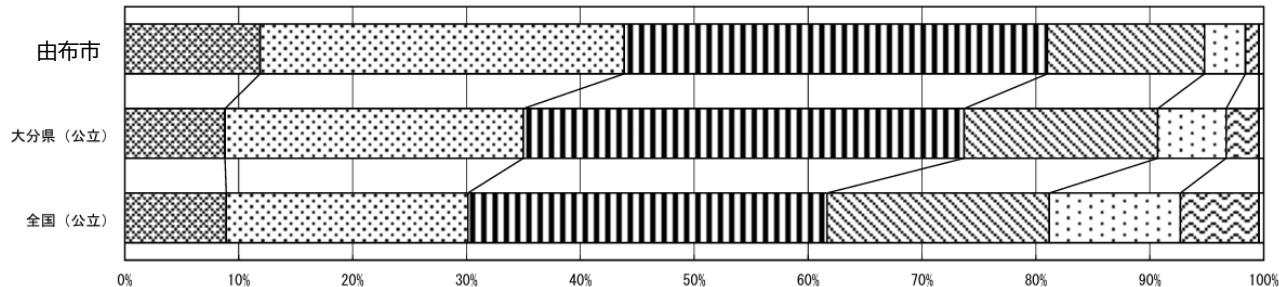
1. 4時間以上      2. 3時間以上、4時間より少ない      3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない      5. 30分以上、1時間より少ない      6. 30分より少ない
7. スマートフォン等を持っていない



## ②学習習慣について

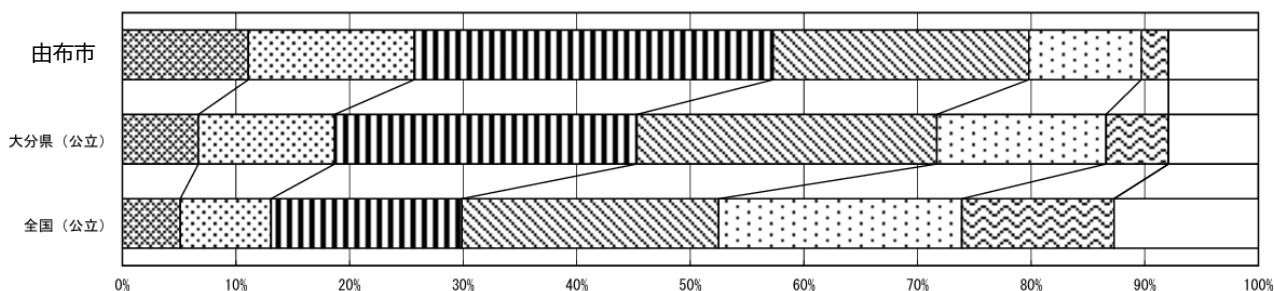
Q 5. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上      2. 2時間以上、3時間より少ない      3. 1時間以上、2時間より少ない
4. 30分以上、1時間より少ない      5. 30分より少ない



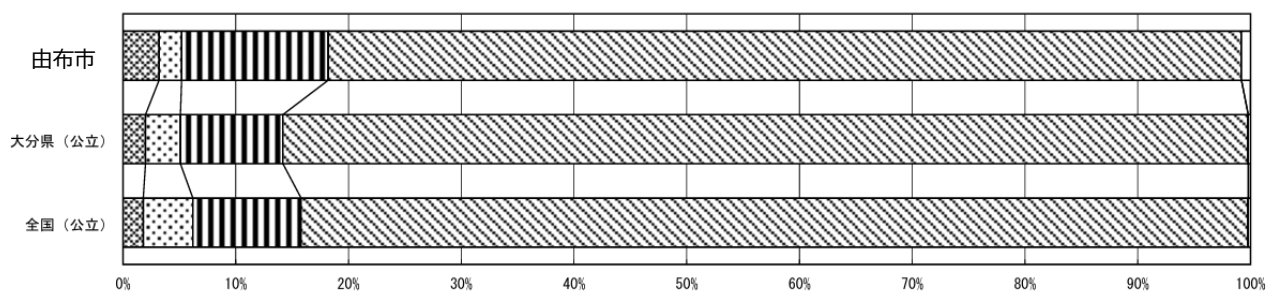
Q 6. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上      2. 3時間以上、4時間より少ない      3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない      5. 1時間より少ない



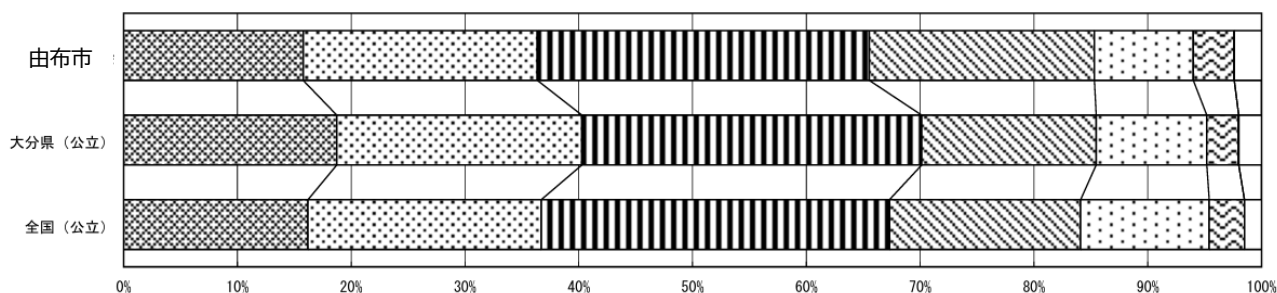
Q 7. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる      2. 週に1～3回程度読んでいる      3. 月に1～3回程度読んでいる  
4. ほとんど、または、全く読まない



Q 8. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）

1. 0～10 冊      2. 11～25 冊      3. 26～100 冊      4. 101～200 冊      5. 201～500 冊      6. 501 冊以上

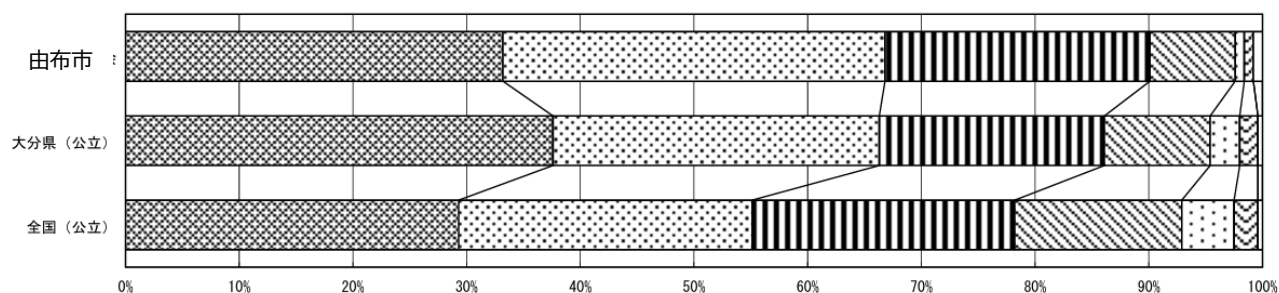


\*平日・休日の勉強時間については、全国・県より高い傾向が見られた。新聞を読む生徒の割合は、県や全国と同程度であった。新聞を読む機会が減っていることもあるので、授業等、様々な場面で新聞に触れる機会を設ける必要があるのではないかと感じる。家庭にどのくらいの本があるかという項目については、全国と同程度であるが、県よりは低い。家にある本が少ないから読書量が少ないと一概には言えないが、学校図書館をはじめ、市立図書館・県立図書館の利用を推進していく必要があると言える。

③1人1台端末の活用について

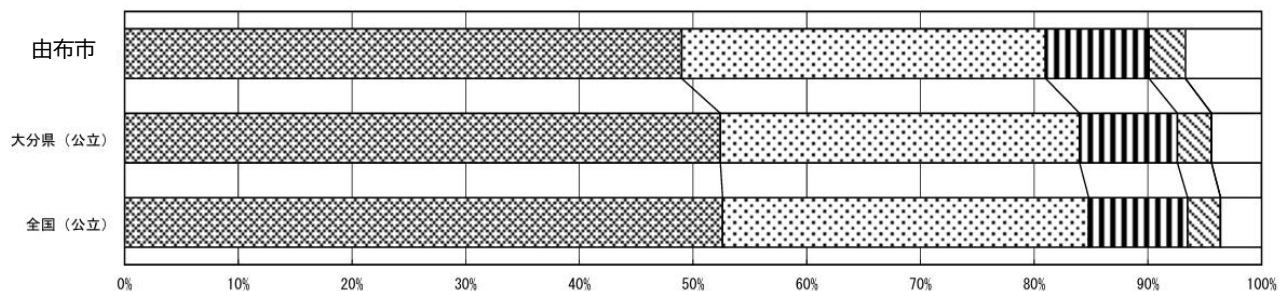
Q 9. 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日（1日複数回）      2. ほぼ毎日（1日1回）      3. 週3回以上      4. 週1回以上  
5. 月1回以上      6. 月1回未満



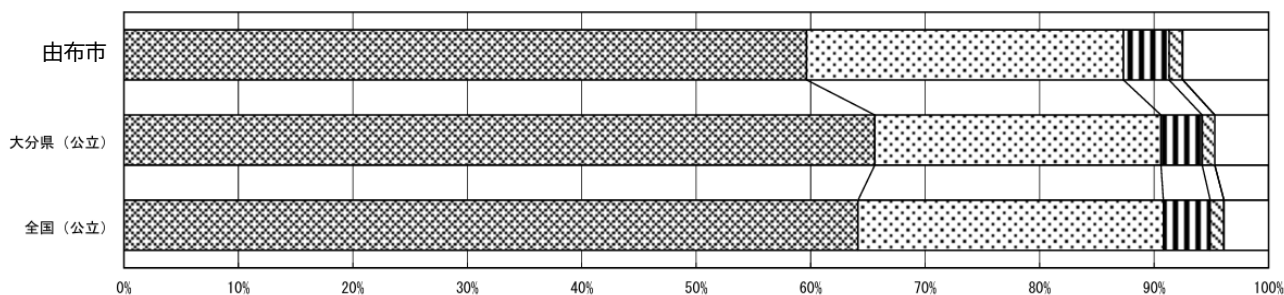
Q10. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



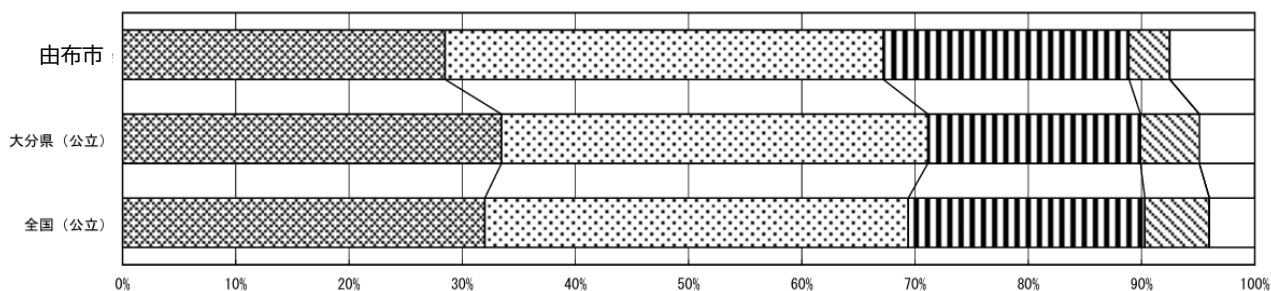
Q11. あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



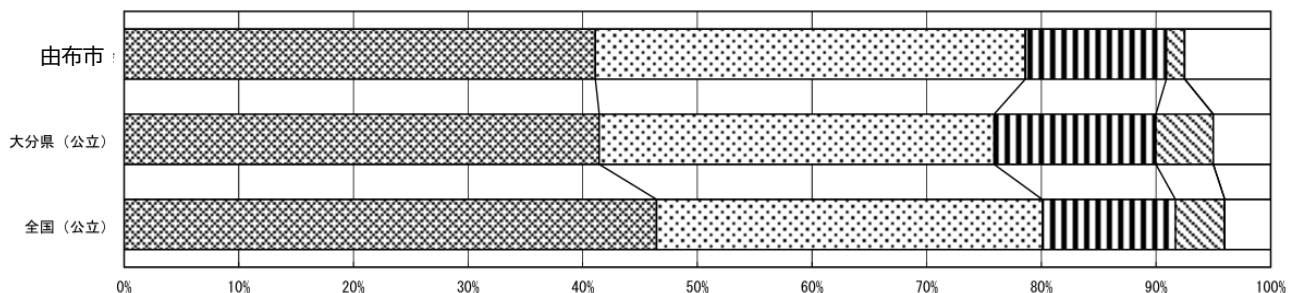
Q12. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない



Q13. あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

1. とてもそう思う    2. そう思う    3. あまりそう思わない    4. そう思わない

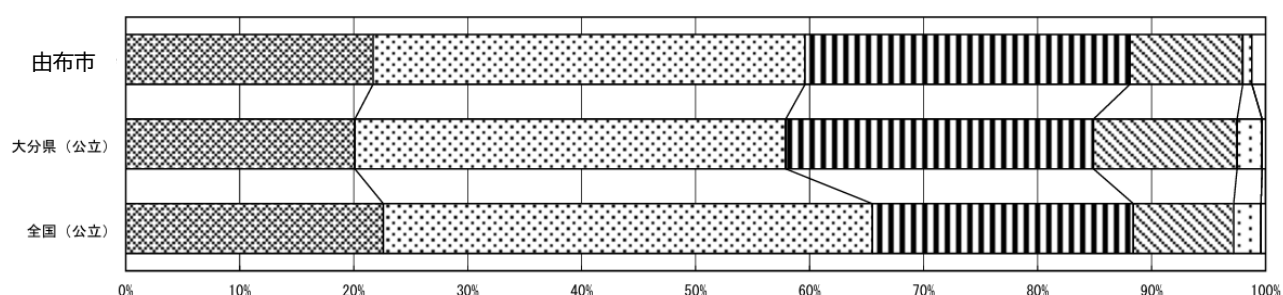


＊端末の活用については、昨年度より使用頻度が上がり、それに伴い自己のスキル判断も上昇している。全国学力調査の分析事例でも示されているように、「調べる」「まとめる」「意見を共有する」など主体的な学びの場面で端末を効果的に活用することが、学習意欲や理解の深化に寄与していることがうかがえる。日常的に端末を活用して授業が進められていることが分かり、今後も、子どもたちの学びをさらに深めることが期待できる。一方で、情報の信頼性の判断や端末を使い分ける力、協働的な活動での適切なコミュニケーションなど、情報活用能力の質的な向上が課題となる。

#### ④学習意欲等について

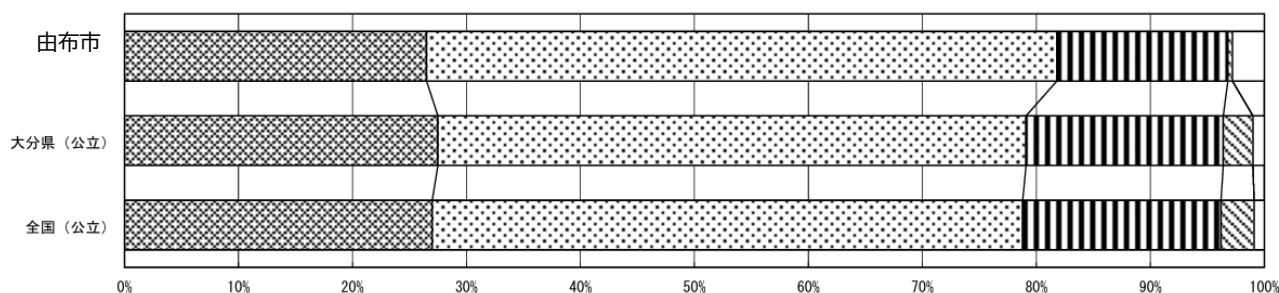
Q14. 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1. 発表していた
2. どちらかといえば、発表していた
3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった
5. 考えを発表する機会はなかった



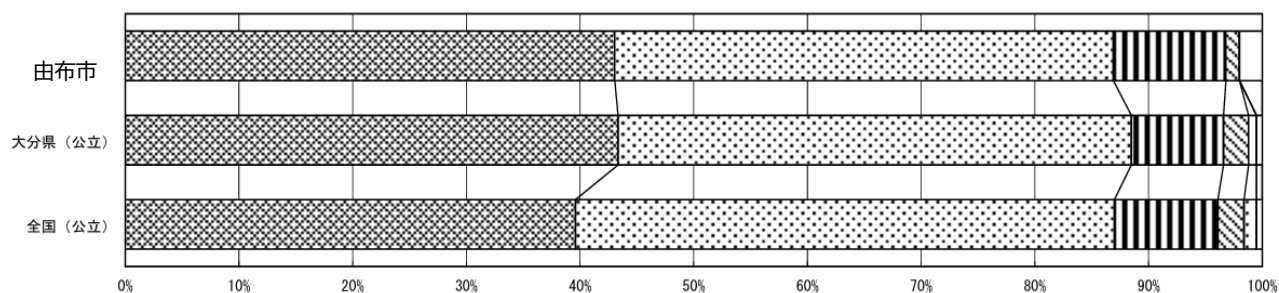
Q15. 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない



Q16. 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない
5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない



\*全国学力調査生徒質問紙の結果を見ると、「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている」は県や全国平均を上回り、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」は県や全国と同程度であった。一方、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」は全国を下回っている。生徒同士の対話を行う際、何のための話し合いなのかを明確にし、教師が意図的に仕組む必要があると考えられる。